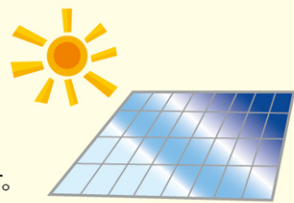


Q 昼間の停電時には使えないの？

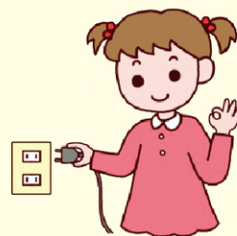
Panasonic HIT の場合

非常用コンセントはパワーコンディショナーのところにあります。自立運転時にのみ使用できます。操作方法等詳細は付属の説明書をご覧ください。



SHARP サンビスタの場合

非常用コンセントは別途専用のコンセントボックスを取り付けます。自立運転時にのみ使用できます。操作方法等詳細は付属の説明書をご覧ください。



いずれの場合も日射時のみ利用できます。夜間は利用できませんのでご注意ください。

自立運転時の電気は非常に不安定で波のある電気です。生命に係わる機器へは絶対に接続しないでください。

また、定格消費電力1500W以上の家電製品は使用しないでください。非常時用のコンセントは1500W以内の使用をお願いします。

※緊急用に冷蔵庫・TV・携帯電話充電のご利用をおすすめします。ドライヤー・掃除機などの使用は控えてください。

Q 太陽光発電は「モト」をとれるの？

最終的にはこの話へ必ず行き着くのが太陽光発電システムです。

また、これができないと価値が半減してしまうのも太陽光発電システムです。

結論＝ライフサイクルコスト試算を行い、費用対効果があるのかを確認しましょう

※ライフサイクルコスト＝物の購入時から物が寿命を迎えるまで投資する総金額のこと

全国一般的には、15年程度で初期投資分はペイできると言われています。果たしてどうでしょう。

各地域の年間通しての日照度合は異なりますので発電量も変化します。

今まで北陸地域では住む人もメーカーもそこまで期待していなかった地域です。

ただ、技術も進歩し発電能力も上がり、家庭電力への変換効率も上がり、多雪地域以外は徐々に地域を問わなくなってきました。

一般的に15年でモトはとれるとは言うものの「維持費」というものが付いてまわります。

メーカーのシステム10年保証の間は考えなくてもいいでしょうがそれ以降は実費としてかかってきます。

■予想される維持費

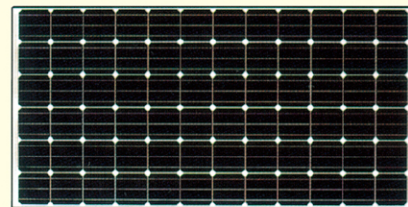
売電メーターの交換義務（北陸・東北電力エリア）、パワーコンディショナーの寿命など、設置後10年～20年の間に考えられる出費があります。

このあたりを加味すると、設置によって効果があるお宅であれば17～18年でモトはとれそうです。

効果があるかどうかは、何kWのシステムが設置できて、それにどれだけ投資して、どれだけ光熱費削減ができるかライフサイクルコスト試算を行い、設置する価値があるかどうか確認してください。

効果が出ないようなら、当社はこれ以上お勧めいたしません。

太陽光システムを導入した場合の光熱費試算受付中 **無料** お気軽にお問い合わせください。



住まいるオスカー

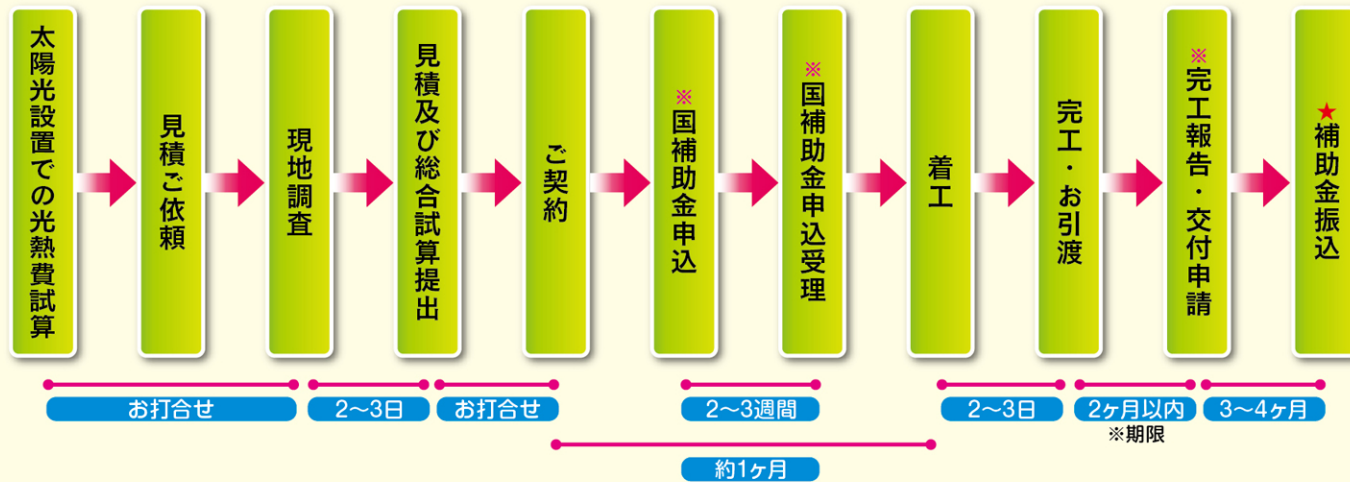
太陽光発電システム



こんなご提案・工事をいたします 編



見積のご依頼から工事までの流れ（国の補助金がある場合）



※…補助金に絡む申請業務は住まいるオスカーが代行いたします
★…国より振り込まれます

・工事内容により見積提出に時間を要する場合があります
・国以外に各地補助金制度がある場合はこの流れの中に都度当てはめていきます

設置する予定のお住まいのここを見させてください

内 容	目 的
① 建物の配置	モジュールの良好な設置面を確定するために
② 建物と隣地との距離	落雪・滑雪の可能性を見るため、安全対策（足場等設置）範囲を見るために
③ 屋根の寸法	モジュールの設置枚数を確定するため、屋根の勾配等安全確認のために
④ 屋根材の種類と状況	設置方法を確定するため、現状の屋根材劣化状況を確認するために
⑤ 築年数と雨漏れ履歴	設置する屋根下地の健全さを確認するために
⑥ 配線を通す場所	宅内での分電盤までの配線経路を確定するために
⑦ 部材搬入出経路	養生等必要なものがないかを確認するために

この調査内容は太陽光発電システム設置工事のみに関する調査内容です。その他の工事がある場合は項目は増えます。



場合によってはこのような提案をいたします

「ただのせればいい」というものでもありません。住まいるオスカーは後々のことを考えご提案いたします。

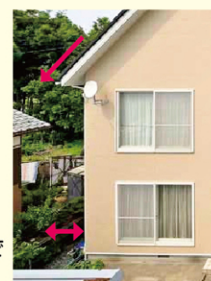
ご提案内容	ご提案根拠・理由
下地状況をみて屋根改修工事をお勧めいたします	下地が脆いと判断した場合、築年数が古く改修履歴がない場合に
既存コロニアル葺きへは屋根改修工事をお勧めします	コロニアル屋根は劣化が速いために
軒先雪止め増設工事をお勧めいたします	落雪・滑雪により直下への被害が想定されると判断した場合に
壁から隣地まで1.5m未満の場合は設置提案をいたしません	隣地への滑雪の被害が想定されるために
軒先から1.5m下がった地点よりモジュール設置を提案します	軒先の雪止めを確保するために



色あせの進んだコロニアル屋根（築12年）



1列増設した雪止め瓦



隣地または道路まで距離のない屋根

こんな流れで工事いたします ※住まいるオスカーは営業担当者が工事の最後まで担当いたします。

モジュール設置～直流配線出し工事



足場設置
（転落防止措置を行います）



留め付け下地施工
（重要な下地工事です）



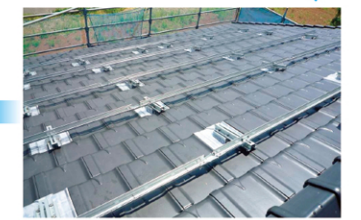
留め付け金具の設置
（支持瓦という専用瓦です）



外部側工事完了



モジュールの設置
（専用金具で締め付けます）



フレームの設置
（太陽光パネルをここに乗せます）

パワーコンディショナー～電気工事



分電盤への交流配線工事



自立コンセント・モニターへの配線
（壁内に通せる場合）



自立コンセント設置
※SHARPサンビスタの場合
（非常時のコンセントです）



このあと検査をします
完了です



売電メーター設置
（これで電気を売り買いできます）



イメージ写真です。

エネルギーモニター設置
（発電の様子を見られます）

住まいるオスカーでは高所作業の場合、転落・落下防止足場を設置します

万が一、事故などを起こした場合、施主様に多大なご迷惑をおかけするのをさけるため、労働安全衛生法に基づき足場の設置をいたします。

作業員の安全確保と工事中の資材落下・飛散防止を目的としています。

よくある質問

Q. 足場工事費を加えるとkWあたり60万円を超えませんか？
超えたら補助金がもらえませんが・・・

A. 補助金申請にあたり、システム設置kWあたり3万円までを控除して申請できます。

例) 見積上、7万円の足場設置費が計上されていました。太陽光は3.0kWシステム工事をします。kWあたり3万円までの控除なので3.0kW×3万円＝9万円までは足場工事を太陽光発電工事費にカウントしませんので、この件は対象外となります。